

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100864
法人名	特定非営利活動法人 久米の家
事業所名	グループホーム 久米の家
所在地	島根県松江市法吉町久米803番地2 (電話) 0852-24-8439

評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年 9月 3日	評価確定日	平成20年 10月27日

【情報提供票より】(H20年8月11日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 10.62 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石田内科小児科医院、須山医院、小松クリニック、紙谷歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの住宅地の奥に建てられ、自然に溶け込んでいる。「一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに」という理念の通り、利用者は穏やかで安心した表情で暮らしている。職員は一人一人の個性を大切に、センター方式も活用して暮らしやすい工夫をしている。小規模多機能型居宅介護を併設したことで、渡り廊下を通して自由に行き来できる場所が出来、アロマセラピーやADL体操を一緒に楽しむなど生活の幅が広がっている。地域との関係を大切に、公民館で認知症や食育についての研修会を開催したり、介護予防教室、認知症サポート養成など安心して暮らせる地域作りに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については改善計画を立て、契約書の見直し、防災計画の追加、新人研修の計画的実践などほとんどの項目を改善している。新人研修用に作った認知症についての紙芝居は地域の認知症勉強会でも活用されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については全員で話し合い、検討を重ねている。自己評価を日頃のケアの見直し、改善に活用しようと前向きに取り組んでおり、気づいたこと、改善課題など話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>併設の小規模多機能型居宅介護と合同で開催している。行政、地域包括のほか、近隣、家族、利用者など毎回10人前後の参加がある。活動報告や稼働状況、提案などに対し参加者から意見があり、意見交換の機会になっている。苦情についても報告し意見を得ている。平日の日中に開催しているが3ヶ月に1回程度の開催となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時に気軽に相談してもらうように配慮している。家族会があり、意見交換ができる。入居時に外部の苦情窓口を明示し、意見箱も置いている。持参した衣類がわからなくなるという苦情があり、浴室で名前の有無を確認し、その場で名前を書くように業務改善している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、日ごろから近所づきあいをしている。地域の運動会や高齢者福祉大会と一緒に参加したり、ホームの夏祭りの模擬店を手伝ってもらうなど一緒に楽しんでいる。公民館で認知症の講演会等を開き理解を深めてもらうよう努めている。小規模多機能と合同で行うアロマセラピーなども近隣にちらしを配り、参加を呼びかけている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに」を理念とし、利用者のペースにあわせた暮らしを実現し、また地域住民との関係を非常に大切に運営している。認知症サポート養成も企画している。地域への発信、実践をしているが理念には明示していない。	○	地域の方の協力を得ながら、共に進めていく実践を重ねているので、地域での位置づけを理念として明文化し、発信していくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲げてあり、家族等にもわかるようにしてある。毎月の定例会や新採用の職員にホームの援助方針を説明する時などより強く理念を意識し、伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、日ごろから近所づきあいをしている。地域の運動会や高齢者福祉大会と一緒に参加したり、公民館で認知症の講演会を開き理解を深めるでもらうよう努めている。小規模多機能と合同で行うアロマセラピーなど近隣にちらしを配り、参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全員で話し合い、検討を重ねている。外部評価の結果については、誰でも見られるようホールに掲示してある。また、改善点については担当者を決め、改善シートに沿って計画的に実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能と合同で開催している。行政、地域包括、地域住民、家族、利用者など毎回10人前後の参加がある。活動報告や稼働状況、提案などに対し参加者から要望、意見などが出され意見交換の機械となっている。平日の日中に開催しているが3ヶ月に1回程度の開催となっている。	○	できれば2ヶ月に1回の開催が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で解決できないことなども相談し、助言をもらったり連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書の送付の祭に、職員が利用者の様子を報告しており、面会時にも情報交換に努めている。年1回の家族会では日頃の活動をビデオで見てもらったり、行事の時に家族同士の交流の機会もある。ケアを巡って家族とのトラブルが大きくなった事例があったが、真剣に対処している。	○	利用者のちょっとした変化も、家族にはていねいに説明し、理解してもらえるよう信頼関係を築くよう、努力を続けてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情については入所時に説明しているほか、玄関に意見箱を設置している。家族会があり意見交換ができる。家族から持参した衣類がわからなくなるという苦情があり、浴室で名前の有無を確認し、その場で名前を書くように業務改善している。	○	重要事項の苦情相談機関は国保連だけでなく、松江市の苦情窓口も明記したほうが望ましい。家族懇談会の機会が設けられているが、職員が席をはずし家族のみの時間をつくり、忌憚のない意見や要望が言えるような工夫も試みてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	小規模多機能を併設した時に職員の異動があったが、利用者も職員も自由に行き来し、なじみの関係を継続している。新しい職員が夜勤をする場合は主任と一緒に夜勤をし、利用者が困らないような体制をとっている。4月以降の異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修係が認知症について紙芝居を作り、採用時の研修に活用している。新人研修、中堅研修など個々の研修計画もつくり、介護研修センターの巡回講習も利用するなど、施設内外での研修を積極的に受けるよう奨励し、「職員を育てる」ことに力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会で同業者との交流を図り、意見交換をしている。また夏祭りには相互に行き来するなど、サービスの向上に努めている。しまね小規模ケア連絡会に参加し研修や交流の機会をもっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学に来てもらったり、一日を過ごしてもらったりして、生活をよくわかってもらうようにしている。共用型の通所利用、宿泊サービス利用、併設の小規模多機能利用からなだスムーズに入居できている。入居後は家族との連絡をとりながら馴染んでいくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまで経験された事などを出来るだけ教えてもらい、一緒に喜怒哀楽を共にし、利用者の気持ちに寄り添うようにしている。職員は20代から60代までバランスの良い年齢構成となっており、話題が豊富で会話も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得ながら、センター方式を活用している。日々の暮らしの中から本人の意向や思いを把握し、情報は常に更新している。行動の変化がある場合は記録をとり背景をさぐり、よりよい援助方法を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、利用者、家族の意向を大切に、定例会で職員全員で話し合っている。センター方式で情報を収集し、できることに目を向けたプランを作っている。生活の中で発揮できそうな役割や活動はケアプランに盛り込み、実践状況を記録し本人のステップアップにつなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に応じて計画は変更しており、月に一度はモニタリングを実施し、きめ細かなケアを目指している。ケアプラン実施表に毎日記録し、スタッフ会で経過を話し合っている。定期的には介護認定の期間にあわせた見直しをしている。	○	定期的な見直しは介護認定期間にあわせているが、もう少し短い期間での見直しを検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型通所があり利用者とは和やかな交流がなされている。お孫さんの結婚式を楽しみにしていた利用者が骨折したが、出席に向けて回復を図り、送迎援助するなど柔軟な支援をしている。受診への支援、医療連携体制、空き室利用の短期入所、自主サービスもおこなっている。		
、					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から2週間に1回の往診や通院の援助をしている。入居前からのかかりつけ医を継続している人には家族の状況に応じて通院介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションと契約し、医療連携体制をとっている。毎月看護師が来所し健康管理や日常生活を把握し、24時間連絡、相談できる体制がある。「看取り介護の指針」があり家族に説明し、状況の変化にあわせて相談するようにしている。ホームでの終末を希望していたが、家族の事情で病院で終末を迎えた事例もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の世話になりたくないという意識や羞恥心を大切にしている。トイレの前で「空いていますよ」などさりげない声がけしたり短時間で手際よくケアするようにしている。言葉使いは「子ども扱いをしない」など気をつけている。個人記録のファイルはスタッフルームの鍵付きのロッカーに保管している。	○	個人記録は外部者の目に触れないようロッカーのガラス戸に目張りなどの工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、本人の体調、ペースに合わせてケアし、朝食も起きた人から食べてもらっている。掃除は、それぞれができる方法で参加し、満足感が得られるようにしている。小規模多機能を併設したことで自由な行き来や利用者同士の交流、一緒に行事を楽しむなど暮らしの広がりができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ピーラーを使った野菜の皮むき、盛り付け、食器拭きなど一緒にやりたいという意欲を持つ人多く、力に合わせて働きかけている。食器の収納など活動のレベルアップもある。食事場所は廊下の端のコーナーも利用し、それぞれのペースで食べれるようにしている。職員も一緒に楽しく食べ、なごやかな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によっていつでも入浴できるようにしている。毎日入る人4人を含め、1日に7名ぐらいがシャワー浴や入浴をしている。車椅子の人も職員2名で介護して浴槽に入ってもらっている。浴槽から裏庭の草木を眺めながら職員との会話を楽しむ時間になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除など家事中心の活動を多くしている。刺し子、習字、小規模と一緒のアロマセラピー、ADL体操など楽しみもある。小規模の利用者との交流も楽しみになっている。車椅子の人もベッド周りをコロコロで掃除するなど、出きる役割をプランに取り込み支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出好きな人が多く、毎日の食材の買い物にも希望して同行がある。職員が市役所や銀行、薬局へ出かけるときも声をかけ外出の機会を多くしている。夕方になると「帰らねければ・・」と言っていた利用者も最近は「ここが自分の家」と言われるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。併設の小規模多機能へも渡り廊下を通して自由に行き来できる。玄関前の掃除をしたり向かいの畑を眺めたり自室から庭に出て草取りを日課にしている人など自由に過ごしている。一人で近隣を散歩する人、庭で夕涼みをする人もありそっと見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣地域や消防署の協力を得、年数回避難訓練をしている。行き止まりにあるため、災害時に職員が駆けつけるルートについても消防署の指導を受けている。通報システムは消防署、管理者のほか近隣住民にもつながるようになっている。火災だけでなく水害等のマニュアルもあらたに作成している。	○	災害時に必要な物品や備蓄についても、準備、点検してみしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	牛乳、ポカリ、お茶など100ccづつこまめに飲んでもらい、水分摂取のトータル量を把握し、摂取が少ない場合は原因をさぐり対処している。食事はボランティアの管理栄養士に定期的に見てもらいアドバイスを受けている。食がすすまない時は家族にも相談し、好物を用意して食べてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりのある建物で、浴室やトイレもこじんまりと落ち着いている。リビングからは裏山の木々や庭の草花が楽しめ、なるべく外気を取り入れるようにしている。リビングには家族が持ってきた花やホーム周りの草花を飾っている。小規模多機能へ続くコーナーもテーブルを置き、共用空間として活用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはホーム備え付けだが、家族の写真、テレビやハンガースタンドなど持ち込んでもらっている。カーテンは入居時好きな色柄の物を持って来てもらっている。押入れがないため季節のふとん、衣類の入れ替えなど家族にお願いしているが、本人と家族との大切な関わりの機会となっている。		